

<外部評価委員からのコメント>

1. 「2017年度の事業成果」に対する評価

(評価者 A)

- ・総合的にバランスよく実施されているように見受けられた。やや、「食」に重点が置かれているようで、漢方薬、生薬関連の事業は記述に具体性がなく、書面からは順調なのか、そうでないのかが読み取れなかった

(評価者 B)

- ・事業目的に沿っての活動目標を掲げ、それに順じて活動を実施しており、新潟県の特産農産物の食品加工品の試験製造とその第三者による評価、アンテナショップでの販売検証、また、新潟において栽培可能な薬草の関係機関との連携による選定活動など、それぞれ積極的に活動され、次につながる成果に結びついているものと評価いたします。

(評価者 C)

- ・概ね良好と評価いたします

(評価者 D)

- ・麦焼酎「六条」の金、銀、銅ラベルの違い、ポイントについての説明を望みます。
- ・麦の効用、機能性という点に関しては、素人にも理解が及ぶように十分にPRすべきかと思えます。食味に関しては、麦というとネガティブなイメージがありますが、本品種についてはイメージを払拭するに十分です。但し、今回の試食アンケートについては、相応の関心を持って会場に出向く人達を調査対象としており、有意な結果を得るにはやや無理があるようです。追加調査等を期待します。
- ・漢方の効能を広く啓発していただくのは歓迎です。

2. 「2017年度の自己点検・評価」に対する評価

(評価者 A)

- ・(1) (2) (3) については妥当と思われる
- ・(4) は評点 A としているが、これでどう A と判定できるのか、疑問
- ・(5) これも同様。この内容でどうして A と判定できるのか疑問

(評価者 B)

- ・六条大麦の加工食品製造、新潟県ブランド品としての拡大への評価が C とは自己評価を厳しく見過ぎではないでしょうか。原料品は天然物であり、当然収穫量の変動で目標数量が達成できないことは今後も有り得ます。それよりも生産できた商品が完売したことが評価できるのではないのでしょうか。今後は「麦ごはん」も含めてこれらをブランド商品としてどう育成していくかの企画立案が重要です。自己評価は妥当と評価します。

(評価者 C)

- ・概ね良好と評価いたします

(評価者 D)

- ・(1) ~ (5) とともに評価の基準を踏まえた適正な判断であると考えます。

3. 「2017年度の進捗状況」全体に対する評価

■助言

(評価者 A)

- ・実施計画(3)(4)(5)については、専門家不足があるのではないかと
思われる。成果の記述に具体性がなく、何がどう達成されたのか不明。随
時専門家とのコンサルティングの機会をもつなど、実行に具体性とスピー
ド感を持たせる必要がある。このまま発展不足になる可能性を強く感じる
- ・実施計画(2)の大麦ごはんの「機能性評価」という記述があるが、「機
能性」という言葉で表す内容を、実施者は正しく理解しているだろうか。
また、目指すところは、「大麦ごはん」の機能性表示であるのか、それと
は違う目標であるのか、わからない。計画されている評価試験の内容と目
指すところにずれがないか、確認されたい
- ・漢方専門相談センターはどういう内容を「相談」として取り扱うのか、取
り扱い範囲を定め、運営する必要があるのではないか。期待する回答が得
られるのかどうかわからないままに、消費者が相談に来るとは思えない
- ・実施計画(4)(5)については、具体的な薬用植物の種類の記事もな
く、越後当帰の学名記載もない状況報告で、助言をしたくてもできない不
十分な内容である
- ・麦にはいろいろ種類があり、「麦芽」や「ハト麦」は生薬としての利用も
あることから、麦つながりでこの方面にも栽培や、産品開発の知恵を絞っ
てはどうか。より、漢方薬・生薬の雰囲気になると予想される。

(評価者 B)

- ・「六条大麦」を使った加工食品の新潟県産ブランド品としていかに県内は
もちろん、全国に発信していくかの企画立案がこれからの大きなテーマと
考えます。原料となる素材の収穫量も制限があると思いますので、販売拠
点も人が多く集まる場所(高速^パキング、ふるさと村、冬のスキー場など)が
候補ではないでしょうか。そういう販売店へのプレゼン資料の作成も重要
です。

(評価者 C)

- ・今後のブランディング戦略および産学連携に期待したい。

■期待できる点

(評価者 A)

- ・麦関連の「食」にかかわる事業について、熱心に進められており、栽培農
家との協力関係もうまく進んでいるように読み取れた。発展が期待され
る。
- ・越後当帰という産品をブランド化候補としている。まずはこれが薬局方適
合品であることを確認してから、ではあるが、生薬の国産化推進にも貢献
できる可能性があり、今後の展開が期待される。

(評価者 B)

- ・大麦や麦ごはんそのものが「健康」のイメージがありますので、新潟県特
産健康食材、食品として期待できるのではないのでしょうか。

(評価者 C)

- ・地域産物の有効利用だけでなく、健康推進や社会福祉等の地域貢献にも寄

与している。

■その他

(評価者 D)

- ・文書中には「健康に貢献」「健康を維持」「健康増進」「健康自立」が繰り返し使用されており、大学の目指すべき方向がよく表れているものと思います。当方では、従業員の「健康の維持・増進」と会社の生産性向上を目指す経営手法である「健康経営」を共済生命保険会社と連携しながら推進しています。大学の目指す方向は、この「健康経営」の理念にも合致するものであります。

大学の広報のあり方としては、地域住民はもとより、企業の経営者、従業員に向けて注力することが有効かと思えます。